

科目名	北欧福祉国家の理論と実践
担当者	福島淑彦
配当学期	春学期(春学期集中) (第2回プロジェクト期間にかけての集中講義)
単位	2 単位
授業概要	少子高齢化の進展に伴い、年金問題、医療保険問題、失業・雇用問題、高齢者福祉問題、教育問題など「社会福祉」「社会保障」に対する関心が高まっている。本講義は、社会福祉先進国であるスウェーデンの経済・社会を概観することによって北欧福祉国家を理解し、さらにはあるべき「社会福祉」「社会保障」の姿を模索することを目的とする。
授業の到達目標	北欧諸国は、平等、社会的公正、社会正義、社会保障、連帯、結束、社会的統合の実現を理想とし、その実現のために最大限の努力をすることを国是とする福祉国家である。本講義(北欧の経済と社会)では、特にスウェーデンの経済及び経済政策、社会及び社会政策を概観しながら、北欧福祉国家を理解することを目的とする。その上で、受講生が「社会福祉・保障政策」並びに「社会福祉国家」が抱える問題に対して自分自身の問題意識を持ち、それらの問題を理解、解明、解決できる視点を養うことができればよいと考えている。
授業計画	<p>2011 年 6 月 17 日(金)～6 月 19 日(日) 鴨川セミナーハウスにての集中講義 (2 泊 3 日)</p> <p>2011 年度は教科書に指定した「Reforming the Welfare State, 2010」(ed. Freeman, Swedenborg, and Topel, University of Chicago Press) を輪読することを中心にして講義を進めていく。「Reforming the Welfare State, 2010」は独立した 9 本の論文から構成されている。各論文を 1 人ないし 2 人で担当して報告し、その内容について受講者全員でディスカッションを行い理解を深める。</p> <p>鴨川での集中講義の前に土曜日に 3 回講義を行う。</p> <p>5 月 7 日(土) 5-6 時限 (17 時から) イントロダクション 概論</p> <p>5 月 14 日(土) 4-6 時限 (i) 北欧福祉国家の全体像(現状)</p> <p>(ii) 経済格差とインセンティブ</p> <p>(ii) スウェーデンの女性労働</p> <p>合宿形式集中講義</p> <p>「Reforming the Welfare State, 2010」(ed. Freeman, Swedenborg, and Topel, University of Chicago Press) の輪読とディスカッション。</p> <p>(i) スウェーデンにおける賃金と雇用の決定</p> <p>(ii) スウェーデンの公共政策</p> <p>(iii) バブル経済崩壊後の労働市場政策</p> <p>(iv) スウェーデンの失業の特徴</p> <p>(v) バブル経済崩壊後のスウェーデン経済</p> <p>(vi) スウェーデンの地方政府の役割と規制</p> <p>(vii) スウェーデン福祉国家とグローバリゼーション</p>
教科書(予定)	<p>Freeman, Swedenborg, and Topel, 2010, <i>Reforming the Welfare State</i>, University of Chicago Press.</p> <p>OECD, 2010, <i>Economic Surveys, Sweden, Denmark, Norway, Finland, Iceland</i>, Paris.</p> <p>A. L. ヒルマン著、井堀利宏 監訳「入門 財政・公共政策 政府の責任と限界」第 5 章 勁草書房</p>

参考文献	初回の講義で参考書・文献リストを配布します。	
成績評価方法	割合	評価基準
	試験 0 %	
	レポート 0 %	
	平常点評価 100 %	(i) 講義出席前に与えられた文献を熟読していること。 (ii) 報告担当者は報告内容を配布用資料として準備していること。 (iii) 積極的にディスカッションに参加すること。
	その他 0 %	
関連 URL		
備考	<p>受講生は事前に出される文献や資料を必ず熟読してくる。また、授業中に疑問に思ったことについては積極的に発言して下さい。</p> <p>鴨川セミナーハウスでの 2 泊 3 日宿泊費(3 食付)で約¥8000 円程度(2011 年 4 月時点)です。</p>	